

2016年6月27日

東京医科大学

東邦大学医療センター 大橋病院

株式会社資生堂

**毛髪再生医療の確立へ向けた臨床研究を開始**

～ 東京医科大学が、東邦大学医療センター大橋病院および株式会社資生堂と連携し、  
脱毛症や薄毛に悩む患者さんの QOL 向上に貢献へ ～

東京医科大学の坪井良治主任教授を中心とする研究チームは、東邦大学医療センター 大橋病院(責任医師:新山史朗准教授)および株式会社資生堂再生医療開発室(細胞培養加工等担当)との共同で、脱毛症や薄毛に悩む方々を対象に、医師主導の臨床研究を行います。本臨床研究では、再生医療のうち、自家毛髪培養細胞を用いた細胞治療法の有効性および安全性の検証を行います。これまでの治療法では対応が難しかった方々も含めた QOL (クオリティー・オブ・ライフ:生活の質) 向上に期待が寄せられています。

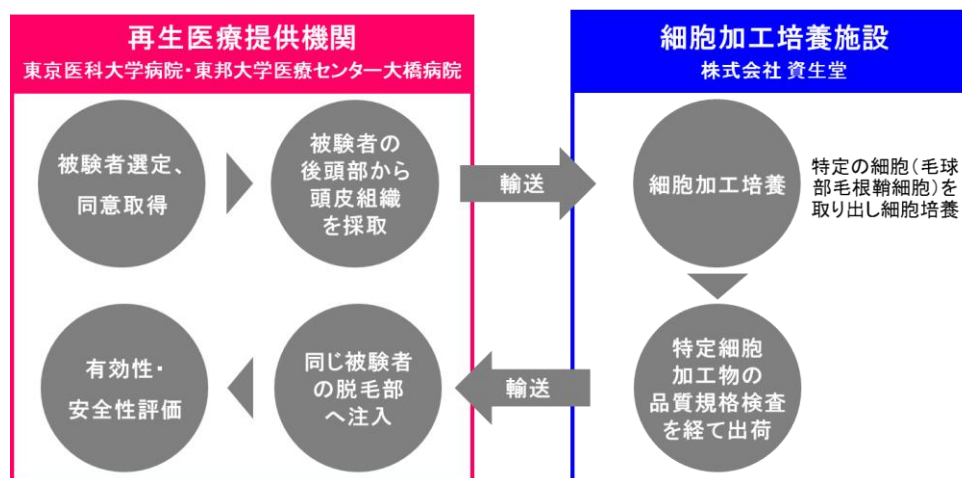
**臨床研究の背景**

現在、脱毛症の中でも発症頻度の高い壮年性脱毛症の治療法として、日本国内ではいくつかの薬剤等が用いられていますが、継続的な服用が必要であることや、女性の場合は薬剤の選択肢が限られていることなどの課題があります。再生医療は、既存の治療法では対応が困難な疾患に対しても画期的な治療方法を提供できると考えています。特に、このたび臨床研究を実施する自家細胞移植においては、患者さん自身から採取した細胞を培養して用いるため、免疫拒絶などの副作用がなく比較的安全性の高い治療方法と考えられ、且つ、必要な組織採取も直径数ミリ程度と侵襲性が比較的小さいので、女性も含め幅広い患者に適用できると考えられます。今回の臨床研究により細胞治療技術の安全性・有効性を確認することで、脱毛症や薄毛に悩む幅広い方々に向けた細胞治療の実現を目指していきます。

臨床研究統括責任医師	東京医科大学皮膚科学分野 主任教授 坪井良治
臨床研究実施機関	東京医科大学病院 (責任医師:皮膚科学分野 主任教授 坪井良治) 東邦大学医療センター 大橋病院(責任医師:皮膚科 准教授 新山史朗)
細胞加工培養	株式会社 資生堂
毛髪細胞治療技術の概要	<p>&lt;治療方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者さんの後頭部(有毛部)より毛包を含む直径数ミリの頭皮を採取。</li> <li>・特定の細胞(毛球部毛根幹細胞<sup>※</sup>)だけを取り出し、細胞培養した後、患者さんの脱毛部位に注入(自家細胞移植)する。</li> </ul> <p>&lt;本治療の特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植毛のように広範な頭皮の切除は不要なため、外科施術における身体的負担(侵襲性)が小さい</li> <li>・自家細胞を用いるため、移植後の拒絶反応などのリスクが小さい。</li> <li>・毎日の使用が必要な育毛料と比べ、一度の治療で効果の持続が期待できる。</li> <li>・男女問わず応用が期待できる。</li> </ul>

※ 毛球部毛根幹細胞(もうきゅうぶもうこんしょうさいぼう)と呼ばれる毛髪細胞の一種。

## 本臨床研究の概要



### 共同研究チーム 責任者のメッセージ

#### 東京医科大学 皮膚科学分野 主任教授 坪井良治 (統括責任医師)

薄毛・脱毛に悩む患者さんは非常に多く、自家毛髪培養細胞を用いた細胞治療は新しい解決策となりえます。これまでは根本的な治療法がなく、特に、女性の患者さんは育毛剤以外には治療の選択肢が少なかったのが現状です。薄毛・脱毛に対する細胞治療法を確立することで、患者さんの QOL(クオリティー・オブ・ライフ:生活の質)向上に大きく役立つと期待しています。

#### 東邦大学医療センター 大橋病院皮膚科 准教授 新山史朗

1999年にドイツの留学先で毛髪再生の研究に着手して以来、薄毛や脱毛に悩む方々のために役立つ細胞治療の確立を望んできました。脱毛治療の第一人者である坪井医師、そして長年にわたって毛髪を研究してきた株式会社資生堂との共同研究により、細胞治療を進展させることができ、このたびの臨床研究により、将来の実用化をめざしてまいります。

#### 株式会社資生堂 再生医療開発室長 岸本治郎

資生堂は明治5年の創業当時から、頭髮、育毛製品を手掛け、毛髪研究に取り組んできました。2013年にヒトへの臨床応用が可能な毛髪再生の技術を導入し、社内で培った毛髪細胞技術などを駆使し、神戸医療産業都市に資生堂細胞加工培養センター(SPEC®)を開設、2015年には施設の製造許可を厚労省より取得しました。今後、東京医大、東邦大学医療センター大橋病院各皮膚科医療機関と連携し、SPECを通じて、安全で高品質な自家毛髪細胞を提供する役割を担うことで、脱毛症や薄毛に悩む方に向けた細胞治療の確立に向け、貢献していきたいと考えています。

(ご参考)

◆東京医科大学皮膚科学分野 主任教授 坪井良治(つばい りょうじ)

統括責任医師、皮膚科専門医、再生医療学会再生医療認定医

<略歴>

1980年 防衛医科大学校卒業

1987年 順天堂大学大学院修了(皮膚科学)

1987-9年 ニューヨーク大学医学部研究員(細胞生物学)

1990年 順天堂大学医学部皮膚科学 講師

1998年 同 助教授

2002年 東京医科大学皮膚科学 主任教授

2012-15年 東京医科大学病院病院長

<専門分野>

脱毛症、創傷治癒、皮膚潰瘍、真菌症、アトピー性皮膚炎、皮膚がんなど

◆東邦大学医療センター 大橋病院皮膚科 准教授 新山史朗(にいやま しろう)

責任医師、皮膚科専門医、再生医療学会再生医療認定医

<略歴>

1994年 東海大学卒業、北里大学医学部皮膚科入局

1999-2001年 Philipp University(Germany)医学部研究員(脱毛症)

2008年 北里大学医学部皮膚科 講師

2013年 東邦大学医療センター 大橋病院皮膚科 准教授

<専門分野>

脱毛症 など

※ご取材の際には、事前に下記へご一報くださいますようお願い申し上げます。

【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先】

東京医科大学

総務部広報・社会連携推進課

03-3351-6141(代表)

東邦大学医療センター 大橋病院

事務部総務課・病診連携室

03-3468-1251(代表)

株式会社 資生堂

広報部 鈴木

03-6218-5200(広報部直通)